

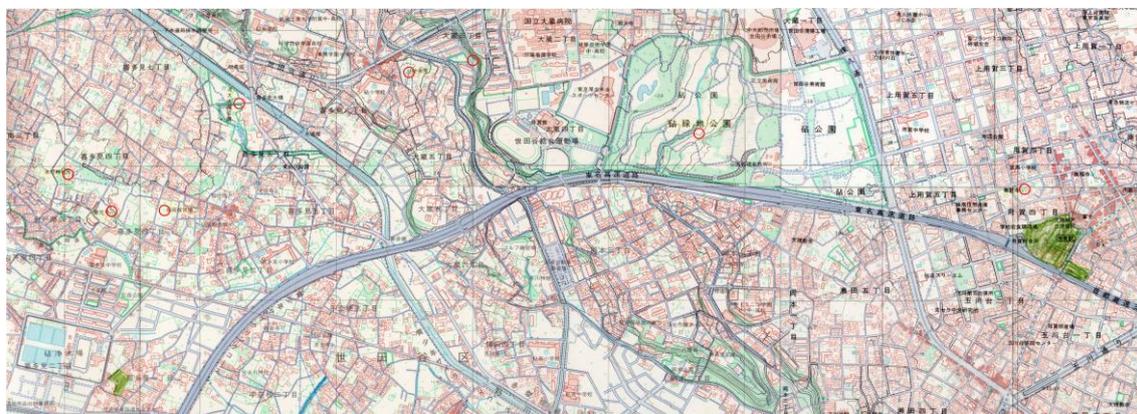
125 砧緑地公園と次太夫堀公園(未完)

水に恵まれた砧地域は古代、高句麗など朝鮮半島から布づくりの技術が渡来し多摩川や野川で布づくりに励んだところ。また江戸の始祖ともいわれる江戸氏の菩提寺「慶元寺」もある。散歩道の沿道に広がる多摩川も楽しむ。

【道順】

東急田園都市線用賀駅→無量寺（用賀観音）→文学の散歩道→砧緑地公園→妙法寺→稲荷塚古墳→須賀神社→慶元寺→喜多見氷川神社→次太夫堀公園民家園→「七人の侍」とゴジラが迎える東宝スタジオメインゲート→小田急線・成城学園前駅

ルートマップ（ポイントのみ）



（街歩き解説）

・無量寺（用賀観音）

境内に一際高く大イチョウが茂る。用賀観音と呼ばれるのは十一面観音像で、品川の浜で漁師の網にかかったのがここに祀られるようになったという。

文学の散歩道

・砧公園

東急田園都市線用賀駅の北東にあつて、戦時中は防空緑地として利用され、戦後は都営のゴルフ場として開放されていたところ。昭和41年（1966年）に都立の公園となった。

約35万㎡の広大な園内は芝生と樹木が中心で、家族連れで楽しめるファミリーパークとして整備されている。また、園内には野球場兼競技場やバードサンクチュアリ、サイク

リングコースも設けられており、北側に世田谷美術館がある。

・慶元寺

小田急小田原線喜多見駅の南東、徒歩 25 分。のどかな田園風景の中にある。文治 2 年(1186 年)、江戸太郎重長が父の菩提をとむらうために江戸城内に創建したのに始まり、当時は東福寺という名称であった。その後太田道灌の築城の際現在のところに移転し、現在名に改称した。

白壁の塀で囲まれた寺域は広く、木立が茂る長い参道の奥に山門があり、山門をくぐると本堂・鐘楼などがある。山門は宝暦 5 年(1755 年)の建立、本堂は享保元年(1716 年)に再建されたもので、世田谷区の寺の中では最古の建造物とされている。

参道の脇に重長の像が建ち、墓地には重長追善供養の五輪塔がある。墓地内には三重塔が建ち、塔の上には相輪が光り輝いている。

・喜多見氷川神社

小田急小田原線喜多見駅の南東、徒歩 20 分。天平 12 年(740 年)の創建と伝えられているが、明らかではない。永禄 13 年(1570 年)、小田原の北条氏に仕えた江戸頼忠が再興したという棟札がある。境内は広く森閑とした檜や杉の木立の中に長い参道が続いている。

一の鳥居をくぐると、さらに奥に石造のやや小さい二の鳥居がある。この鳥居は承応 3 年(1654 年)に喜多見重恒、重勝の兄弟によって建立されたとされ、世田谷区では最古の鳥居として、区の有形文化財に指定されている。また、節分の鬼やらい行事と神前神楽の民俗芸能が氏子によって伝承されており、無形民俗文化財に指定されている。

・次大夫堀公園民家園

次大夫堀は、多摩川の水を取り入れて世田谷領・六郷領を流れる農業用水で、慶長年間に開削された。

公園内にはこの用水が復元されており、管理棟では用水開削に当たった小泉次大夫と次大夫堀についての展示を行っている。また、公園内には民家園があり、江戸時代に建てられた民家や土蔵が移築復元されている。

・「七人の侍」とゴジラが迎える東宝スタジオメインゲート

メインゲートの側面には、東宝スタジオで製作された数多の作品の中でも最高傑作とも言うべき「七人の侍」の巨大な壁画が。絵柄は草原に七人が集まる有名なスチール・ショットで、前面に立つ菊千代＝三船敏郎が 12.4 メートルという大きさは圧倒的な迫力です。そして、ゲートのもうひとつの脇には、東宝のシンボル・キャラクター「ゴジラ」のブロンズ像があって、こちらも全高 2 メートルの堂々たる体は黒く光り、建物をも破壊する躯体は力強さに溢れています。

**** オフィス 地図豆 店主 yamaoka mitsuharu
ym-kaempfer@kxb.biglobe.ne.jp ****